

## 〈「20の動物医療用語」に関する理解度調査 回答と解説〉

---

### 問1 エビデンス

1. 新しい治療法
2. 治療法がよいという証拠
3. 患者の意向に沿った治療法
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

#### 正解 2. 治療法がよいという証拠

薬や治療方法, 検査方法など動物医療の内容全般について、様々な調査結果や研究から、よいと判断できる証拠のことを“エビデンス”といいます。

---

### 問2 寛解(かんかい)

1. 病気が完全に治った状態
2. 症状が落ち着いて安定した状態
3. 症状が悪化している状態
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

#### 正解 2. 症状が落ち着いて安定した状態

病気の症状が一時的に軽くなったり、消えたりした状態のことを“寛解(かんかい)”といいます。このまま再発しないで、完全に治る可能性もありますが、場合によっては再発する可能性もあります。病気が完全に治った状態だと誤解されがちですが、再発しないように、定期的に検査を受ける、薬を継続して服用するなどをしなければいけません。

---

### 問3 誤嚥(ごえん)

1. 食物などが気管に入ってしまうこと
2. 異物を飲み込んでしまうこと
3. 食事を飲み込むこと
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

#### 正解 1. 食物などが気管に入ってしまうこと

食べたり飲んだりしようとしたときに、飲食物が食道ではなく誤って気管に入ってしまうことを誤嚥(ごえん)といいます。飲食物を飲み込む力が弱かったり、飲み込む神経の働きが悪かったりすると起こりやすくなります。飲食物が気管に入ると激しくむせるのは、それを押し出そうとするからで、飲食物だけでなく唾液(だえき)が気管に入る場合もあります。口から肺に細菌が入ることで病気を引き起こすきっかけにもなります。

.....

問4 がんの浸潤(しんじゅん)

1. がんが周囲に広がること
2. がんが転移すること
3. がんが大きくなること
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 1. がんが周囲に広がること

がん細胞が、発生した場所で増え続けていくとともに、周りの器官に直接広がっていくことを浸潤(しんじゅん)といいます。がん細胞が周囲にある血管やリンパ管に入り込み、血液やリンパ液の流れによってたどり着いた場所で広がることを転移といいます。

.....

問5 腫瘍の生検(しゅようのせいけん)

1. X線検査やCT検査などの画像診断法
2. 患部の一部を切り取って顕微鏡などで調べる方法
3. 唾液や尿など体から出る液体の検査
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 2. 患部の一部を切り取って顕微鏡などで調べる方法

腫瘍の病変の一部を採って、顕微鏡で詳しく調べる検査のことを生検と言います。生検組織診断とも呼ばれ、手術や内視鏡検査などのときに体の組織を採ったり、体の外から超音波(エコー)検査やX線検査などを行いながら、細い針を刺して組織を採るなどします。

.....

問6 予後(よご)

1. 余命
2. 症状が悪化する時間
3. 今後の病状についての医学的な見通し
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 3. 今後の病状についての医学的な見通し

今後、病気から順調に回復できるのかどうかという見通しを表す言葉です。順調な回復が期待できる場合は「予後が良い」、あまり順調な回復が期待できない場合は「予後が悪い」と表現されます。ただし、末期がんの場合「予後は10カ月」という用い方をする場合もあり、病気やその状態によって、表される意味が異なることもあります。

.....

#### 問7 インスリン

1. 血糖値を低くするホルモン
2. 血糖値を高くするホルモン
3. 糖尿病治療薬であり開始するとやめることはできない
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

#### 正解 1. 血糖値を低くするホルモン

インスリンは、すい臓のベータ細胞で作られるホルモンです。糖分を含む食べ物は消化酵素などでブドウ糖に分解され、小腸から血液中に吸収されます。食事によって血液中のブドウ糖が増えると、すい臓からインスリンが分泌され、その働きによりブドウ糖は筋肉などへ送り込まれ、エネルギーとして利用されます。インスリンには、血糖値を下げる働きがあります。インスリン注射は、このインスリンを外部から補う治療法です。

.....

#### 問8 炎症(えんしょう)

1. 体を守るために、体の一部が熱を持ち赤く腫れたり痛んだりすること
2. 熱が出ること
3. リンパ節が腫れること
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

#### 正解 1. 体を守るために、体の一部が熱を持ち赤く腫れたり痛んだりすること

からだか、細菌やウイルスなど何かの有害な刺激を受けたときに、これを取り除いてからだを守ろうと白血球が防御すると反応が起こります。その反応の起きている場所は熱を持ち、はれ上がり、赤みがさし、痛みを感じます。これを「炎症」と言います。

.....

#### 問9 腫瘍(しゅよう)

1. 命とりになる悪性のがんのこと
2. 良性のしこりを示す
3. 細胞が無秩序に増えた状態
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

#### 正解 3. 細胞が無秩序に増えた状態

細胞が異常に増えてかたまりになったものを腫瘍とよんでいます。ある場所にとどまって大きくなるだけの良性の腫瘍と、治療が必要な悪性の腫瘍があります。悪性腫瘍は“がん”とも言います。悪性のものは、周囲を壊しながら広がったり(浸潤・しんじゅん)、離れたところに飛び移ったり(転移・てんい)します。悪性の場合には治療が必要になります。

.....

問10 腎不全(じんふぜん)

1. 腎臓の働きが十分ではないが、まだ大丈夫である状態
2. 腎臓の働きが大幅に低下した状態
3. 片側の腎臓の働きが低下した状態
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 2. 腎臓の働きが大幅に低下した状態

腎不全は腎臓が正常に働かなくなった病気の状態のことです。腎臓はからだの中をめぐってきた血液の中の要らないものや余分な水分を、尿として体外へ排出する働きがあります。腎不全になると、排出しなければならないものが血液中に残ったままになり、からだと心の両面に悪影響が出てきます。

.....

問 11. ステロイド

1. 抗生物質の一つ
2. 副作用が強いホルモン剤で、数日間のみ服用することができる薬剤
3. 炎症を抑えたり、免疫の働きを弱める薬剤
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正答 3. 炎症を抑えたり、免疫の働きを弱める薬剤

ステロイドは炎症をしずめたり、免疫の働きを弱めたりする薬です。腎臓(じんぞう)の上の方にある副腎皮質(ふくじんひしつ)というところで作られたホルモンのうち、糖質コルチコイドという成分を合成した薬です。ステロイドには、飲み薬、注射、塗り薬、吸入剤などがあります。飲み薬や注射は、専門の医師の処方によって使用します。

.....

問12 対症療法(たいしょうりょうほう)

1. 病気の原因を取り除くのではなく、病気によって起きている症状を和らげたり、なくす治療法
2. 病気の原因を探って、原因を取り除く治療法
3. 痛みを取り除く治療法
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 1. 病気の原因を取り除くのではなく、病気によって起きている症状を和らげたり、なくす治療法

病気によって起きている痛みや発熱、せきなどの症状を和らげたりなくしたりする治療法です。病気そのものや、その原因を治す「原因療法」と並行しておこなう治療法です。例えばがん治療の場合、苦痛となる症状を和らげることで、日々の生活を快適にすることができ、充実した時間を過ごすことに役立ちます。対症療法と原因療法とが同時に行われる場合もあります。

.....

問13 頓服(とんぷく)

1. 食間で薬を飲むこと
2. 痛み止めの薬
3. 症状が出たときに薬を飲むこと
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 3. 症状が出たときに薬を飲むこと

一日一回とか毎食後とか、決められたときに薬を飲むのではなく、症状が出て必要になったときに薬を飲むことです。「頓服(とんぷく)薬」と言うのは、そのようにして飲む薬のことです。

.....

問14 敗血症(はいけつしょう)

1. 感染症によって臓器が障害を受けた状態
2. 血液が壊れる病気
3. 血液中にがん細胞が回っている状態
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 1. 感染症によって臓器が障害を受けた状態

血液に細菌が入って全身に回るなど重い感染症で、からだの抵抗力が負けて様々な臓器がおかされてしまう病気のことです。高熱や頭痛などを起こし、治療が遅れると命にかかわるため、抗菌剤などを使って早めの治療が必要です。

.....

問15 がんの化学療法

1. 薬を用いたがんの治療法
2. 科学的に信頼できる治療法
3. 手術ができないケースでおこなう治療法
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 1. 薬を用いたがんの治療法

がんの治療の方法には大きく分けて、外科療法、放射線療法、化学療法、免疫療法の4種類があります。外科療法は手術で、放射線療法は強いX線で患部を直接治療します。化学療法は、抗がん剤として知られている薬を使う治療法です。注射や内服によってからだの中に薬を入れ、がんが増えるのを抑えたり、がんを破壊したりします。この方法だけで治療をすることもあります。ほかの治療法と組み合わせる場合もあります。免疫療法は、免疫の力を利用して、がんを攻撃する治療法です。

.....

問16 既往歴

1. これまでにかかった病気
2. これまでにかかった重度な病気
3. これまでに服用した薬でのアレルギー
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 1. これまでにかかった病気

既往歴とはこれまでかかった病気のことです。今かかっている病気の診断や治療法を検討するのに役立ちます。

.....

問17 合併症

1. ある病気が原因となって起こる別の病気
2. 何らかの病気と一緒に必ず起こる病気
3. 薬を服用したために引き起こる病気
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 1. ある病気が原因となって起こる別の病気

合併症とは、ある病気が原因となって起こる別の病気のことです。例えば、糖尿病の場合、動脈硬化や脳梗塞(のうこうそく)などの病気が起こることがあります。

.....

問18 貧血(ひんけつ)

1. 立ちくらみ
2. 血液中の赤血球や、その中の色素が減っている病気
3. 血液中の鉄分が少なくなっている病気
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 2. 血液中の赤血球や、その中の色素が減っている病気

血液の中の赤血球や、その中の色素が減った状態を言います。その色素のことをヘモグロビンと言います。赤血球やヘモグロビンは、全身に酸素を運ぶ働きをしているので、不足すると酸素が足りない状態になり、めまいや息切れなどの症状が現れます。気持ち悪くなって立ちくらみを起こして倒れることを貧血と誤解されることが多いようです。

.....

問19 セカンドオピニオン

1. 主治医が診断に自信がない時に患者に勧める方法
2. 主治医以外の医師に意見を聞くこと
3. 他の病院で診断治療をおこなうこと
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 2. 主治医以外の医師に意見を聞くこと

現在かかっている医師とは別の医師の意見を聞くことをセカンドピニオンといいます。勧められた手術が妥当なものか、ほかに治療法がないかなど、診断や治療方針について主治医以外の医師の意見を聞き参考に判断することです。したがって、セカンドオピニオンを求める場合は、主治医にもはっきりと申し出なければなりません。動物においても同様に、主治医である獣医師以外の他の動物病院で、別の獣医師に診断や治療法について意見を求めることがセカンドオピニオンです。

.....

問20 QOL(キューオーエル、クオリティー・オブ・ライフ)

1. その人(動物)がこれでいいと思える生活の質
2. 痛みがない状態
3. 積極的な治療をおこなわないこと
4. 聞いたことはあるが意味はわからない

正解 1. その人(動物)がこれでいいと思える生活の質

人の医療では、患者さんの人生観や価値観を尊重し、患者自身がこれでいいと思えるような生活をできるだけ維持することに配慮することを指します。動物医療では、原則飼い主がその判断をすることになりますが、基本的に動物の痛みや苦痛が少なく楽しく生活できている状態を目指します。

.....